

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年 5月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677100168
法人名	有限会社 健やかクラブ
事業所名	グループホーム 元気
所在地	鹿屋市串良町細山田5340-2 (電話) 0994-31-0161
自己評価作成日	平成23年2月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成23年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・園芸療法を中心に広い敷地を利用して家庭菜園を作り、日々の料理に利用したり、花を作ったり(種蒔きから育苗等)、利用者と一緒に草取り収穫を行っている。家庭的な雰囲気の中で、元気の名の通りスタッフ、入居者様朗らかに協同している。

・更に、個々の生活レベルに合わせ、強制する事なく、我が家のごとくのもんびりと生活できている。

・栄養士を中心に、カロリー計算を行い、栄養が偏らないように工夫を凝らしている。

・食後の口腔ケアは歯科衛生士の指導のもと、個々の対応がしっかりとできている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に建てられた施設で、利用者は穏やかな時間を過ごし、あたたかい職員の声かけや見守りの中で支援されている。

職員間の関係は良好で、家族や地域とも良い関わりがなされ、利用者の人格や生活の背景が、尊重されるサービスにつながっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りミーティングの際、職員で唱和して業務に従事し、月一回の職員会議でも理念の再確認をしている。	「心こそ大切なれ」を原点とした理念を玄関に掲げ、毎朝の朝礼で唱和し、ミーティングでも復唱・確認するなど、管理者と職員で意識の共有をして利用者の支援につなげようと努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの催し物がある時は、招待状を配り参加を呼びかけている。町内会の夏祭りや、敬老会等は、招待を受けて参加している。又、節分の際は、手作りの巻き寿司を近隣に配っている。	地域の夏祭りや敬老会等に招待されて、よく参加している。また、ボランティアの訪問も多く、地域の方からタオルや雑巾の差し入れもある。今年から中学生の職場体験の受け入れを計画しており、積極的に地域とのつながりを持つよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	近隣住民の方がいつでも立ち寄れるよう、普段から声掛けを実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議を定期的実施し、サービスの状況報告し、そこでの意見などを参考にしてサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催しており、地域代表3名、家族(交代制)、行政等の参加がある。避難訓練を兼ねて開催することもあり、その際は消防団の参加もあり、それぞれの立場からの貴重な意見をもらっている。外部評価の報告もを行い、利用者と職員の年間計画や、目標達成状況も報告するなどサービスの評価の機会にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	施設長、管理者が市の行政に向いたり、電話などで情報交換や実情、サービスの取り組みを伝えながら向上に努めている。又、運営推進会議等に出席して頂き、意見を聞いている。	グループホーム連絡会に加入し、行政との情報交換の機会にし、包括支援センターともよく連絡、情報交換を行っている。パンフレットや毎月発行する「元気便り」の配布、認定申請代行の際に、事業所の取り組みを伝えて、連携をとるように心掛けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	徘徊者が出てもしすぐ対応できるようドアにチャイムをつけたり、身体拘束をしないようスタッフの動線範囲内においてもらっている。やむを得ず、拘束する状況が発生した時は、必ず身体拘束廃止委員会を開催し、期間を設定し、経過記録を記入し、家族の同意を得ている。	「身体拘束をしないケア」についてのマニュアルを作成し、職員会議の中で研修をしている。玄関や居室の入り口に施錠は行っておらず、職員は利用者の動向をさりげなく観察し、対応している。やむを得ず拘束するような状況が発生した場合は、主治医の指示をもらい、身体拘束廃止委員会にかけ、家族に了解を得て、そのプロセスを経過記録に記録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内勉強会や市町村単位の学習会には、積極的にスタッフが交代で参加し、職員会等で研修報告して頂いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内勉強会や市町村単位の学習会には、積極的にスタッフが交代で参加し、職員会等で研修報告して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文書にてホームの運営理念、方針を丁寧に説明している。解約時は、各関係機関と連携し、家族の方が安心できるサポートをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口相談を設置し、いつでも対応できる体制を取っている。	半年に1回家族会を開き、意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見、要望は、申し送り簿に記入し、職員間で情報を共有している。また、面会時に意見を聞いたり、その回答コメントを「元気便り」に載せるなど、利用者主体の運営に努めている。さらに、家族と昼食を一緒にとる機会を多くして、意見を伺う場面作りをするなど話しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り帳を利用したり、月一回の職員会議の中で、意見などを聞いたりして運営に反映している。	毎月職員会議を開き、意見交換をしたり、申し送り帳や利用者の支援会議を通じて、職員の声を拾い上げるよう努めている。勤務体制については、希望を聞くなど職員が働きやすいよう考慮し、日頃より職員が意見を言いやすい雰囲気作りを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見を多く取り入れて、働きやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加させたり、ホーム内でも職員会議の中で勉強したり、研鑽している。又、個々の相談にも随時応じ、向上につなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会主催の勉強会で相互間の意見交換したりして、サービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面接時、優しい言葉遣いと態度で接し、不安感を与えないようにしている。できる限り、本人の要望を受け入れられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が安心して頂くようにわかりやすく説明し、優しい言葉遣いと態度で接し、家族の要望を受け入れられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の情報を収集し、必要に応じて、他の関係機関と連携を図ってサービス利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、強制するのではなく、コミュニケーションの心掛け、趣味、レクリエーション、調理の下ごしらえ、行事など共に協力し、助け合うことに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出、又、お盆、正月の一時帰宅や外泊を負担のない限り、協力して頂いている。そして、年中の行事参加やホーム便り、面会、電話などでお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも外出、外泊が自由にできるように、又、いつでも面会に来て頂けるように開放している。	外出、外泊については、本人の希望に添えるようにし、墓参り、なじみの美容室、理髪店利用等の支援をしている。また、アセスメントシートを活用し、本人の馴染みの人間関係を把握するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に台所作業をしたり、洗濯物を干したり、畳んだり、レクリエーションの参加をして頂いている。歩行の可能な方は、下膳や運動の時は、車椅子を押し頂いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても家族の方へ電話したり、現在の状況を聞いたりして、関係を維持している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族から得た情報や日頃のコミュニケーションの中で、希望することを聞いたり、勧めたりしている。(買い物、食べたいもの、したいことなど)	ケアプランに本人の意向を聞き、家族にも確認し、介護計画に活かしている。毎日の生活の中で思いや希望の把握に努めて、本人本位の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を基にして、今までの生活歴を重視し、ケアカンファレンスを開催して、サービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送り帳に記入している。職員会議や毎日の申し送り、緊急のミーティングを実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて具体的なケアプランを作成している。必要に応じて、スタッフがミーティングをし、より良いケアが出来る様にしている。	担当者会議を開き、本人、家族、主治医、看護師等の意見を取りまとめ、介護計画を作成している。モニタリングは、通常3ヶ月に1回実施しているが、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。計画書は、本人の部屋に置いてあり、職員はケアプランを確認しながら支援を行い、その内容は申し送り帳で職員間の情報の共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を毎日記入し、申し送り帳を利用してスタッフ全員が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の要望を受け入れて、GHも特性を活かして一人一人が自然な形で、持っている力を発揮して暮らしていけるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の紹介などで舞踏や楽器演奏に来て頂いたり。ボランティアで話し相手に来て頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時を含む24時間の医療連携を確保し、月一回のDrの居宅療養管理指導で適切な医療受診を支援している。	かかりつけ医の選定は、本人、家族の希望を尊重している。入居後も自由に選定することができ、当ホームのかかりつけ医に変更を希望する家族も多い。連携医療機関の医師による毎月1回の往診があり、緊急の場合も24時間の医療連携がとられ、早急に対応することが出来る。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや介護記録を元に、異常があればその都度、Dr又は、看護婦の支持を仰ぐ。必要があれば、往診や受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関を確保し、MSWと連絡を図ったり、その状況を聞いたりして行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	連携医療機関のDr、家族などと普段から話し合い全員で方針を共有している。	「重度化、終末期の対応について」の方針を明文化し、家族等に説明、話し合っている。途中医療機関の変更があったが、家族に説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、ホームで研修をしたり、外部研修に参加して、初期対応の訓練を実施している。又、緊急連絡網も掲示し、いつでも連絡し合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急時対応策マニュアルを作成して、周知徹底している。消防所職員、地域消防団長や地域住民に参加して頂き、消火、避難訓練を実施している。</p>	<p>夜間想定も含め年2回、避難訓練を行い、地域消防団や地域住民の参加もある。消防署への直通電話、自家発電、スプリンクラー等の設置があり、災害非常用の水・食糧・ラジオ・懐中電灯等の備えがある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	四六時中他人と接するのが苦手な人、口下手な人など無理強いはせず、居室で過ごして頂いたり、その都度、スタッフが声掛けをしている。	玄関に事業所の方針を掲げている。利用者のプライドを傷つけない声かけに努め、丁寧な対応を心がけている。居室で過ごす利用者にもさりげなく声かけをし、見守っている。記録等は鍵のかかる棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの出来事に声掛けして、出来たことは褒めてあげたり、好みのおかずや食べたいものに希望を取ったり、行きたい所などを聞いて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に散歩、外出、フロアでくつろぐ等、様々なスタイルが保てるよう一人一人のペースを大事にしている。毎日、レクリエーションも様々取り入れ、楽しんで頂けるよう支援している。歩行訓練、又、可動域訓練も実施し、筋力の維持に繋げている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分の意思表示が明確にできる人には、衣類を購入の際、自分で選んで決めて頂いている。女性に対しては、マニキュアや手作りの指輪をつけてあげたりしている。爪切り、髭剃り等、出来ない部分は、スタッフが対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に何を食べたいのか声掛けをし、好みに応じて食事を作ったり、準備のできる人は手伝って頂いたり、片付けをして頂いている。バイキング等、外食も取り入れている。	献立は利用者の希望を取り入れたり、家庭菜園と一緒に旬の野菜を育てたり、外食を取り入れたり、できる方には準備や片付け手伝ってもらうなど、食に関心をもってもらうよう、工夫している。食前に口腔体操を行い、職員も同じテーブルで声をかけながら一緒に食事をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を中心にカロリー計算を行い、目標量を確保できる献立内容に努め、水分摂取時はその都度記録し、必要に応じて補給して頂く。体調に合わせ、お粥、刻み、トロミを付ける等、個々に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、食事前のお茶でのうがい、食後は歯磨きうがい、夕食後は義歯洗浄を用いて消毒をしている。歯科衛生士の有資格スタッフを中心に掛かりつけの歯科医との連携を取っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄時間を記録し、時間を見計らって声掛けをし、トイレ対応に努めている。	排泄チェック表を作成し、個人毎のパターンを把握し、タイミングをみた声かけで排泄の自立にむけた支援に努めている。以前、紙オムツで入居した利用者がリハパンツ使用になった例やオムツはずしのできた例もある。失禁の場合はさりげなく声をかけ、すみやかにシャワー、更衣などを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や植物繊維食品を食事に取り入れたり、適度な運動を行ったり、処方された下剤などを用いて排便コントロールに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴時に一人一人のタイミングを見て声掛けをし、希望の時間にゆっくりと楽しみながら、入浴できるように支援している。	週3回の入浴を行っている。利用者の希望にそって、入る順番を替えるなど配慮している。車椅子対応の利用者が多いので4人のスタッフが関わり、入浴を拒否される場合は、無理強いをせず、タイミングをみた声かけを行っている。希望の入浴剤を使うなど個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日その日の生活状況、生活習慣を把握し、和室や居室のベッドでゆっくりして頂いたり、不眠で睡眠剤の必要な方は、用いて安眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報をファイルにして一回分ずつ薬局にて分包して頂き、服薬確認、症状の変化確認に努めている。又、薬剤師による服薬の基礎学習をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除時、歩行可能な方には、自分の居室の掃除をして頂いている、花壇の手入れや草取りなども自らしたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は、ドライブに誘ったり、女性入居者様にはスーパーマーケットに同行して頂いて、日用品、食料品の買い物に付き添って頂いている。	遠出の外出の際は、事前に家族の了解を得て出かけている。ドライブ、お花見、ウッドデッキでの日光浴やお茶飲みなど変化のある生活をしてもらうように努めている。行事計画や写真付きの行事記録を家族に配布したり、リビングに貼ったりして思い出にしている。墓参りや買い物の希望にも応じており、適切な外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆どの方がお金を所持していない。必要に応じて使う時は、ホームで立て替えて使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個々に応じて自由に電話できる体制を取っている。ダイヤルしてあげてから、渡すなどしている。又、スタッフが協力して年賀状や暑中見舞いなどを家族に出せるように努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季の移り変わりには、貼り絵、雛飾り、鯉幟など揚げたり、メニューなどにも取り入れている。季節が変わることを視覚、味覚で感じて頂いている。</p>	<p>庭には季節の花、木が植えられ、玄関には季節の花が生けてある。リビングは板張りの床、壁には利用者のその時々の写真がコメントを添えて貼ってあり、ひな壇も飾られ、季節感があり温かい雰囲気がある。日当たりが良く、昼寝のできる畳のスペースがあり、ガラス戸越しに外の風景も見え、居心地の良い空間となっている。静かに流れる音楽も心地良い。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>個室であり、ホール内にソファを設置し、畳の間も設けてあり、入居者様同士、自由に過ごせられるようにしてある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様一人一人、使い慣れた生活用品が持ち込まれている。</p>	<p>大きな窓があり、吐き出しのある居室である。馴染みのタンス、引き出し、飾り物などそれぞれの持ち物に特徴があり、その人らしく過ごせるように工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子でも利用できるようにスペースを広くしている。又、歩行の不安定な方もホール内手すりを設置して、自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない